

講師:『吳善花(オ・ソンファ)』拓殖大学国際学部教授;大東文化大学卒・東京外大修士課程卒
韓国生れ・済州島出身・26歳まで韓国に育ち、強烈な反日教育を受けた後日本に留学・
在日30年・日本に帰化。に。著書:「スカート」の風」「続スカート」の風」「新スカート」の風」:
ベストセラーに。「『日帝』だけで歴史は語れない」・「攘夷の韓国 開国の日本」(山本七平賞受
賞)他 最近の著書に「なぜ『反日韓国に未来はない』のか」等有る。

目 次

1. はじめに

2. 価値観の違い

- (1) 小さな違いが根源的な違いを招く。
- (2) 陰陽二元的価値観と多元的価値観。
- (3) 最大の親日派「吳善花氏」の実態。
- (4) 韓国及び韓国人の実態。
- (5) 根本的な違いはどこに。

3. 「吳善花氏」の日本を理解し、『違いを乗り越えた』プロセス

- (1) 在日1年目は親日に。
- (2) 2～3年目で反日に。
- (3) 在日5年程度で変化して来る。

4. 何故多くの韓国人は「価値観の違いを乗り越えられない」のか？

- (1) 韓国へ戻った或る在日2年の女性ジャーナリストの場合。
- (2) 目に見えない物は時間を掛けて解決するしかない。
- (3) 異民族の侵略と占領下に置かれた歴史を持たない日本(人)と、侵略の歴史を頻りに経験した中韓(人)。

5. Q & A

- (1) 在日韓国人の価値観も半島人と同じか？
- (2) 朴槿恵大統領は在任中に対日歴史観を変え得るか？
- (3) 日韓併合時代に、日本は思想や文化まで普及したのか？

6. おわりに

- (1) 日本文明の世界的役割への道。
- (2) 日中間の共通の歴史教科書なんてあり得ない。
- (3) 孫子曰く。

1. はじめに

日本会議船橋支部主催の講演会に参加した。講師は韓国生れ韓国育ちで日本に留学後日本に帰化した在日30年の親日家である「呉善花(オ・ソンファ)」氏である。韓国で親日派と云えば「敵性派」ともみられる中で、「身を挺して日韓関係の将来を正す」ために評論・教育・文筆等の世界で活躍中の韓国人女性である。

李明博大統領の竹島上陸を機に、日韓関係は悪化した中で、「朴槿恵」新大統領に対して、日韓関係の正常化には幾何かの期待を抱いた日本人は少なくなかったのではないかと察する。だが彼女は、大統領就任後から竹島問題、従軍慰安婦問題等に関して強硬な姿勢を取り続け、日本と韓国の関係を「加害者と被害者という歴史的立場は、1000年の歴史が流れても変わることはない」と発言した。その後韓国国内では「千年恨」という言葉がブームとなり、韓国・北朝鮮連合軍による対馬「奪還」作戦を描いた小説『千年恨、対馬』が出版されベストセラーとなったと言われる。

更には、外国を訪問する度に、一国のトップリーダーとしての品格すら欠くとも思われる様な対日歴史認識を主張し、相手側に同意を求めるような態度を取り続けている。大統領職に着任早々でもあり、国内の人気取りを優先し、国内基盤を確たるものにした後は、逐次歴史認識の修正と現実的な政策を行うのではないかと云う安易な認識を持たなかったわけではないが、どうも必ずしもそうではなさそうである。その様な認識は今後の展開を見なければ断定はできないものの、その根源にある『価値観の相違』を乗り越えなければ『分かり合えない』事が一層理解できた次第である。正に大中華の中国と小中華の韓国の中華文明と日本文明の衝突である。

又、朴大統領は日中韓三国による共通の歴史教科書作りなどを呼び掛けているが、歴史の認識を共有できるとでも思っているのではなく、自分達の認識に向けた譲歩を相手に求めるというのが本音であるという事を察する機会であったとも言える。

「韓国国内では、入国させて公開処刑せよ」とまでマスコミから叩かれ脅迫されながらも、「身を挺して日韓関係を正すのが使命である」と断言し、日韓間に立ち塞がる堅くて厚い壁とも言える『価値観の違い』を乗り越えようとして行動している姿には感銘の他ない。以下、講演内容を紹介し、如何にすれば違いを乗り越えられるのかの考察に資すれば幸甚である。

2. 価値観の違い

(1) 小さな違いが根源的な違いを招く

ア. 韓国語には無い「濁音」: 点々病患者(呉善花;ゴゼンカではなくオ・ソンファで通す訳)

イ. 敬語の違い: 日本では他人主体に対して使うが韓国では自分主体に使う。

(私の父は・弊社の社長は ⇒ 私のお父様は・私の会社の社長様は・・・)

(2) 陰陽二元的価値観と多元的価値観の違い …… (筆者が勝手に付けた表現)

ア. 母(女)系社会の日本と父(男)系社会の韓国

- (ア)日本の韓流ブーム(冬のソナタ・ヨン様)を好む日本人女性の気持ちが解らない韓国人
 - ・ヨン様の「ナヨナヨさ」は男性としては魅力を感じない韓国人女性達
 - ・儒教(朱子学)に基づく「強烈な男尊女卑」の韓国社会
- (イ)男尊女卑の様で、実は女性が実権を握っている日本人の家庭。
 - ・女性に支えられた男性社会の日本

イ. 始末が悪い「朴槿恵」大統領

- (ア)父親は強烈な反日教育を施した。
 - (イ)実態は認識不足ではない。本質的な価値観の相違である。
 - (ウ)外国訪問先で主張する反日歴史観は本物である。
- ウ. 反日を語れば「教養人」と呼ばれる韓国
- (ア)マスコミは北朝鮮と同じ様だ。
 - (イ)クリスチャン大国韓国の半数ほどの牧師は「3. 11は天罰だ」と言って居る。
 - (ウ)「関東大震災は、日本人による大虐殺であった」という多くの韓国人達。
 - (エ)「なぜ日本人は韓国を苦しめているのか」と日本を呪う韓国人。
- エ. 日韓併合などの「学問をしてはならない」という韓国社会。

(3)最大の親日派「呉善花氏」の実態

- ア. 韓国における親日派の位置付けは「敵性派」である。
- イ. 主権・国王・人命・言語・土地・氏姓・資源の七つを奪った『七奪』や「慰安婦問題」で執拗に
対日攻撃を行っているが、実態は全くの虚言であり、むしろ日韓併合で近代化が進んだ
朝鮮半島である。例えば、40校あった学校が36年間で5900校以上に成り識字率
が著しく向上した他様々な近代化が進んだ。
- ウ. 身を挺して日韓関係の将来を正すのが使命である。
- エ. H25. 7. 27の母国への理由なき入国拒否は人権侵害である。民主国家とは言えない
。(甥の結婚式参加予定であった)

(4)韓国及び韓国人の実態

- ア. 質が落ちたマスコミ
 - 7. 21の入国拒否に関し、マスコミは、「入国させて公開処刑せよ」とも報じた。
- イ. 反日で韓国経済は低下してきた。
 - (ア)日本人に代わって増加した中国人観光客達に閉口する韓国社会
儲からない(中国式商売: 中国企業による丸抱え商売)・マナーの悪さの二重苦に喘ぐ。
 - (イ)中国人を抜いた韓国人の日本への観光客
 - * お目当ては「和牛の焼肉」と「日本酒」及び「おもてなし」
 - * 韓国国内では「和牛の店が繁盛」・和牛の店を出される豪州産牛肉を食べに行く
韓国人達。酒の特許を取った韓国。⇒ 本物の焼肉と日本酒を好む韓国人達。
 - * ドバイに輸出される「佐賀牛」は現地で5万円/200g。
 - (ウ)日本の文化や物に対しては「親日」だが、歴史認識になれば「反日」という実態。

(5) 根本的な違いは

ア. 『空気の違い』

(ア) 安倍晋三首相は悪徳者・軍国主義者呼ばわりのマスコミ

(イ) 3. 11以降「日本人の結束と絆の復活」を『脅威』と観て居る。⇒『錯覚』

イ. 日本人の『軸』を掴み切れない韓国人(中国人)

(ア) 儒教(朱子学)文化圏では、崇拜の対象は『先祖だけ』である。⇒自・個が主

(イ) 八百万の神を崇拜する日本人を理解できない。⇒他・多が主

⇒その様な日本(人)は「野蛮」である。

⇒日本人には軸が無いのだから「常に叩いておくべき」である。

3. 「呉善花氏」の日本を理解し『違いを乗り越えた』プロセス

(1) 在日1年目

良い印象 ⇒ 日本の韓流ブームレベル

(2) 2~3年目

ア. 日本人の軸が読めない。何を考えているか解らない日本人 ⇒やはり野蛮人！

イ. ヨーロッパへ逃れる。ヨーロッパから見た日本(人)

⇒おかしいのは自分の価値観の違いに気付く。

⇒世界に比類のない日本社会の素晴らしさに気付く。

ウ. 多くの場合は2~3年目を乗り切れないでいる日本留学生(等)達。

(3) 在日5年程度で変化して来る。

4. 何故多くの韓国人は「価値観の違いを乗り越えられない」のか？

(1) 韓国へ戻った或る在日2年の女性ジャーナリストの場合

「すべての日本人はおかしい人々だ」: 300万部の売れ行き ⇒目に見える物から

⇒価値観・習慣の違いが決定的 ⇒ かつて「朴槿恵」氏のスポークスマンであった。

* 履物の揃え: 韓国では履物を揃える習慣はない。日本ではわざわざ揃えてつま先を外向けにする。⇒ 早く帰れというサインである。

* 食事の場合: 茶碗を持つ日本人・素材を大事にする日本食(混ぜない)「くちやくちや」と食べない日本人。鍋を囲んでも各個の取り皿に取って食べる日本人。⇒距離感大
茶碗をもたない韓国人・「ごちゃ」混ぜする韓国食・「くちやくちや」と食べるのは「美味しいという表現」の韓国(日本人にとっては百年の恋も冷める行為)。
各個のスプーンで鍋を混ぜたスプーンでスープを飲む韓国人。⇒距離感小

(2) 目に見えない物は時間を掛けて解決するしかない。

ア. 人間関係の在り方に観る日本と中韓の違い。

* 「一緒に食事しましょう」は、(初対面等の)距離感を縮める手段。

* 「言わないでも解る日本人」と「言わなきゃわからない中・韓人」⇒差別感へ繋がる。

* 「消しゴム等を借りるときに、毎回、『貸してくれる?』と『有難う』を連発する日本人、
「勝手に借りて勝手に返して置く」中韓人。⇒距離感の問題

*「間を置くことにより相手を察する」日本人、間を置いて察することは無い中韓人

* 社交事例は通じない中・韓人 ⇒「どこまで義理人情か詐欺かがわからない」

(3) 異民族の侵略と占領下に置かれた歴史を持たない日本(人)と、侵略の歴史を頻りに経験した中韓(人)

ア. 領土問題: 日本は沢山の島を持っているのだから、竹島くらいは、対馬くらいは譲っても当たり前だと考える韓国。中国も同様。

イ. 信じられるのは金正日だけ、あの歴史家のみという韓国人。

⇒日本人は他を信じるが、信じられるのは自分だけ、他人こそ危険という価値観

⇒間を置き察する日本人、自分との距離感を縮める為に相手の譲歩を求める韓(中)国人

(4) 日本が韓国と付き合う極意は『間を置く』ことにある。

5. Q & A

(1) 在日韓国人の価値観も半島人と同じか？

在日1世には韓国人の価値観は強いが、2～3世は育った環境に影響されて、日本的な価値観を有している。

(2) 朴槿恵大統領は在任中に対日歴史観を変えるか？

変わらないだろう。どうにもならない状況に陥っていると思われる？

(3) 日韓併合時代に、日本は思想や文化まで普及したのか？

否。日本の思想や文化までは普及できなかった。

6. おわりに

(1) 日本文明の世界的役割への道

アメリカの国際政治学者であるハンチントン教授は、「文明の衝突(文明の衝突と世界秩序の再生)」の中で、現代の主要文明は、西洋文明、東方正教文明、イスラム文明、インド文明、中華文明、ラテン・アメリカ文明に加え日本文明を7つの文明の一つに加えた。

又、トインビーは、文明の中核には、宗教があることを明らかにしたが、ハンチントンもその説を継承し、日本文明の固有の宗教とは『神道』であると言う。更に、「神道は『海洋的』な要素を持ち、日本文明に海洋的な性格を加えている。これは、四方を世界最大の海・太平洋をはじめとする海洋に囲まれた日本の自然が人間心理に影響を与えているものと思う。」とも述べている。そして独自の文明を有する「日本には自分の文明の中に他のメンバーがいないため、メンバーを守るために戦争に巻き込まれることがない。また、自分の文明のメンバー国と他の文明との対立の仲介をする必要もない。」だから、「日本は文明間の対立を協調へと導く役割を演じ、世界の平和と環境に積極的かつ建設的な役割を果すこと期待している」と云うのである。

ハンチントンが予想した西洋文明とイスラム文明の衝突は9.11で、西洋文明と中華文明の衝突は米中間の冷戦という形で現実化したと言える。その様な中であって、太平洋と云う大きな海洋を隔てて、西洋文明と中華文明の間に位置する日本文明は、自己の存立のためには、西洋文明と中華文明の融和を図らざるを得ない環境にある。又、中華文明圏に属す

る中国や韓国とは、何れ文明の衝突がある事を示唆していた訳であるが、かつて我が国は、明治以降、ロシアを安全保障上の対象としながら、西洋文明の一部であるアメリカを常に気にしてきた。日英同盟と日米同盟では栄えたが、アングロサクソンと袂を分かった時期は衰退した。其の衰退した時期は、常に文明圏を異にする中華圏の中国と朝鮮半島が焦点と成り、遂には大東亜戦争へと引きずられ敗北した。その様な歴史を有し、現在置かれた現実だからこそ、同盟関係に有るアメリカに盲従するのではなく、また中国や韓国・北朝鮮に媚びへつらったりするのではなく、日本独自の価値観に基づき堂々と主張し自立できる日本文明国家を目指さねばならないのである。そうでなければ、ハンチントンが期待する様な、世界の平和と環境に積極的な役割は果たし得ないことに成る事は必定である。

(2) 日中間の共通の歴史教科書なんてあり得ない

我が国の特性を一言で言い表すことは出来ない。和の国(民)・寛容な国(民)・多様性を受容し得る国(民)・有色人種を白色人種から解放した国(民)・天皇制の国・神の国……。と
言い表す事は可能であろうが、一方、強い国の言いなりになっている国(民)・安全保障を他の国に委ねた他立の国(民)・何を考えているかわからない国(民)・軸の見えない国(民)・軍国主義の国(民)・神風特攻の国(民)・万歳突撃の国(民)……。価値観の異なる国からは、
どうも違って見えるのである。

此れには、同色人種や同文同種と言われながら、中華儒教文化圏の国々と神道・仏教・儒教などが融合した独特な日本文明文化の間には大きな違いがある事は語り継がれて来たことである。例えば、「桜の日本と梅の中国・朝鮮」とか、死生観の違い、たとえば「輪廻転生思想からくる“七生報国”の日本と現世的倫理を重視する中国・朝鮮(未だ生を知らず、焉(イヌク)んぞ死を知らん:孔子・吾が生を善くする者は、吾が死を善くする所以なり:杜周)」とか、「敵我死者悉皆成仏」という寛容な日本」と「勸善懲悪」という敵に対して不寛容な中国・朝鮮」・「蓋棺論定」とか”・“族誅・罪九族に及ぶ“といった、死後に成ってからその評価を決められるだけでなく、子々孫々まで敵の屍を鞭打つという”絶対的不寛容文化の中国・韓国」「漢奸・大漢奸」等々、文化の違いを如実に物語っている。

加えて長い間の歪んだ国民教育等の影響は否定できないが、やはり、宗教を根源とする価値観の相違の壁は極めて厚い事を認識することから始めなければ成らないだろう。その上で、「歴史とは」とか「正しい歴史認識とは」とかの課題は、これまでに多くの歴史家達により論じられてきていることをあらためて認識しなければならないだろう。

朴槿恵大統領や藩基文国連事務総長等は、しきりに「正しい歴史認識を持て」と我が国に迫るが、「歴史家の選択や解釈から独立した『歴史的事実』など存在しないとカーは云う。(エドワード・ハムレット・カー)。都合の良い事実を選択し配列すれば『正しい歴史認識』などいくらでもつくり出すことが出来る。つまり、『正しい歴史認識』なるものが存在するというのは、余りにもナイーブな、もっと言えば子供じみた考えなのだ。…歴史は現在の眼を通して過去を見る事で成り立つものであり、『歴史的事実』は歴史家の評価によって決まる。そしてその歴史家

もまた、社会状況や時代に縛りつけられている。つまり、歴史家と云う存在自体が中立ではあり得ない。(適菜 収・SK紙H25. 11. 16より) その点、歴史認識は歴史家の研究に任せるといふ安倍首相の立場は、理屈上は支持できるのであるが、戦後の歴史家達は、一部を除き『東京裁判史観に偏向した』人達であるために、歴史教科書を巡っては幾多の問題を生んでいるのが実態である。教科書検定等に当たっては是非とも行政機関の長として『あるべき姿』に向けた判断を下していただきたい。

つまり、歴史は自然科学と異なり、人文科学に類するために解釈には主観性が付きまともためにその解釈が様々なものとなるわけである。例えば大東亜戦争における歴史観は、日本と中国の間、日本と韓国の間などはその実例である。従って、日中間の共通の歴史教科書の作成など実現する可能性は極めて薄いと(不可能?)言わざるを得ないのである。

19世紀以降20世紀にかけて、中国からの脅威に、ロシアからの脅威に自ら立ち向かう事無く、日本人の血で国家と民族の存続を維持し、日本の敗戦により「棚ボタ的」に国家建設に漕ぎ付けた韓国や北朝鮮にとって、「我が国の『大東亜戦争』・『特攻』・『玉砕』等の歴史に対して、『とやかく』言われる筋合いはない。むしろ、恥じるべきではないのか。」というのが一般的な日本人から見た半島人への歴史観ではないかと思うのだが、一部の日本人を含め、多くの半島人の歴史観は大統領を含め異なるわけである。

(3)孫子曰く

ア。「凡そ用兵の法は、国を全うするを上と為し、国を破るはこれに次ぐ。軍を全うするを上と為し、軍を破るはこれに次ぐ。……是の故に百戦百勝は善の善なる者に非ざるなり。戦わずして人の兵を屈するは善の善なり。故に上兵は謀を伐つ。その次は交を伐つ。その次は兵を伐つ。其の下は城を伐つ。(第3謀攻篇)」と述べ、孫子の本質の大事な柱の一つである。

現在の日中関係からは、尖閣列島を巡り緊張感が高まっている。最近の事象としては、中国の「防空識別圏の設定」は更に緊張を高める典型的な例である。法戦・世論戦・宣伝戦が着々と進められている昨今、日中・日米・米中の関係が東アジアの戦略環境問題の焦点と成ってきている。孫子の説く、『戦わずして勝つ』ために中国も動いているはずである。その為には、①謀を伐たれず、②交を伐たれず、③兵を伐たれず、④城を伐たれない様に備えなければならない。①政治的に屈しないこと、②日米間の意思の疎通が明確であり確たるものであること・③軍事的な空白を形成し付け入る隙を作らないこと・④尖閣にも明確なプレゼンスを形成すること等が、我が国が採るべき道である。

日韓関係では、我が国民の特性である『間を置きながら』日韓間の民間交流を促進し、雁字搦めの朴大統領の歴史観に楔を打ち込み、日韓間の政治に潤滑剤を注入し大統領の「謀を伐ち」、日米同盟関係を強化して自由・民主・人権等の価値を共有する重要性を韓国側に気付かせ、これまでに構築した「日米韓の関係強化」こそが「韓国の国益」に繋がる方向で韓中間の「交を伐つ」事が出来るだろう。更に、日韓の軍事的協力こそ北朝鮮の挑発に備える道であることであり「兵を伐ち」、日米間の巨大な城を確たるものにする道である。

イ。「夫れ戦勝攻取して其の功を修めざる者は凶なり。命(ナス)けて費留(ヒリュウ)と曰う。両将はこれを修め、利に非ざれば動かず、得るに非ざれば用いず、危うきに非ざれば戦わず。主は怒りを以て師を興すべからず。将は愠(イキトオリ)を以て戦いを致すべからず。利に合えば而(スナワ)ち動き、利にあわざれば而ち止まる。……此れ国を安んじ軍を全うするの道なり。(第12火攻篇より)と述べている。

先ず政治的には、これまでに築いてきた日米韓関係の相互の国益に着目した政策を進めることが重要であろう。つまり、韓国を費留に陥らせず、中国を費留に陥らせることにある。これは、経済的にも反日によるボディーブローが効いてくる事は必至であり、我が国としては『間を置きながら』冷静に察しつつ、直接間接の別なく、手を差し伸べる環境作りとタイミングを誤らないことでは無いだろうか。中国に対しては、トップリーダーや軍関係者に対して「誤ったサイン」を送らないことである。その為に打てる手を惜しんではならないだろう。つまり、屈しない分野と妥協する分野の使い分けである。政治・軍事・経済・文化・学術・法曹・マスコミ等の各種国際的な舞台を駆使して主張と協調を呼び掛ける事である。一方、我が国内には、反日・親中の国民も存在するが、反中派は年々多くなっており、硬軟両様における呼び掛けを怠らないことであろう。日中(韓)間では、複数(多数)のコミュニケーションルートを確認しこれを常に機能させておくことである。そして縦割りに成りがちな組織に横串を突き刺しながら、『国益とは何か』『協調とは何か』を多くの場で説く事であろう。歴史観を共有するよりも、違いを認め合う事から始まるだろう。然し、歪められた事実には毅然とした反論が必要である。間を置きながら、多様な価値観を認めうる、そして相手にも妥協を求めていくことは我が国が得意とすることである。

ウ。「……相守ること数年にして、以て一日の勝ちを争う。而(シカ)るに爵録・百金を愛しんで敵の情を知らざる者は、不仁の至りなり。人の将に非ざるなり。主の座に非ざるなり。勝の主の非ざるなり。……」(第13用間篇より)と述べているが、百年兵を養う意義を正當に認め備える事であり、情報活動に金を惜しむことを戒めている。戦わずして勝つために必要な備えであり投資である。各種法制や組織の新設などで、普通の国同様の姿に向けた動きがある事は望ましいが、安全保障の一環でもあるとは言え、米国主導のTPPで日本の特質を失い国益を失う様な交渉は是非とも避けてほしいと願う所である。おわり。

注:「罪九族に及ぶ」:中国では古来から、罪は親族が連帯して負わせられるという考えである。此れには犯罪を抑止するという狙いと遺族の遺恨を根こそぎ絶つという目的が有ったと言われている。因みに、九族とは=九親等、つまり、高祖父・曾祖父・祖父・父・本人・子・孫・曾孫・玄孫までの範囲に及び極めて厳しい考え方である。本思想が権力闘争に導入される場合も多々ある様であり、「**岳飛**の墓は多くの参拝者が訪れるが、かつて南京で

親日政権を樹立した汪兆銘(汪精衛)は大漢奸として九族扱いされているのではないかと
思われる。正に、朴槿恵大統領の歴史観である『千年恨』に繋がる思想である。